

自分を見つめて

高三

僕は今、たくさんの友達と一緒に話したり、遊んだりして学校が毎日楽しいです。僕は普段車椅子で移動したり、はって動いたりしています。クラスの間は七名で、ほとんどが僕と同じように車椅子に乗って生活しています。車椅子には小さいときから乗っているのですが、足代わりとなってもできるようになりました。一人で目的地に到着することや、体育で「氷おに」や「バレーボール」を仲間と楽しむことができます。僕のように足に感覚がなく、歩くことができなくても、車椅子があれば可能性が広がります。

しかし、昔は学校が全然楽しくありませんでした。理由は、小学校では同級生四〜五人に「お前なんてずっと座ってんだよ。立てよ。」や「車椅子なんてするいんだよ。」と悪口を言われたり、車椅子から無理やり突き落とされたりと、いじめを受けていたからです。ですから、僕には友達といえ

る人がいませんでした。いじめを受けすぎて、辛くて死にたいと思ったこともあります。悪口を言われていることやいじめを受けていることは、先生や家族には言えませんでした。なぜなら、先生や家族に心配をかけたくなかったし、言うことが恥ずかしかつたからです。言ったとしても、どうにかしてくれるのか、助けてくれるのかも思っていました。誰にも言えず、一人で辛かったです。僕は一度だけずる休みをしたことがあります。学校に行かずにすんだことにほっとしましたが、親に嘘をついて心配をかけて、ずる休みをしたことを後悔しました。

中学校へ上がる際、普通中学校か特別支援学校へ進学するかを悩み、バリアフリーの特別支援学校に決めました。特別支援学校に進学し、小・中・高校生が同じ校舎で学ぶことに驚きました。生徒数が少なく教員が多いことや、車椅子で生活している人でも入れるプールがあること、寄宿舎に泊まれることにも驚きました。同じように障害がある友達は気さくで悪口を言われるようなこともなく、毎日学び合うことができます。少しの配慮や

ルールを変えることで、体を動かすことや生活することにハンディは生じないのだと気付きました。僕は学校から家までスクールバスで登下校しているところを、民間のバスと電車で帰ることができるよう練習しました。特別支援学校を一步出ると道にバリアがあり、歩道が斜めだったり、段差があつたり、信号がなかったりと多くの問題があります。車椅子だと視線が低いので車や電車のスピードが速いと感じます。色々なことを一人で乗り越えて嬉しかったし、自分一人のできるんだなと自信が付きました。少しずつ勇気が出てきて、いろいろなことに挑戦することができました。

今年母に昔の出来事を話してみました。母は「気付いてあげられなくてごめんね。」と言っていました。僕は心配をかけて悪かったなと思いました。

中・高等部の六年間で、昔できなかったことも今はできるようになっています。これからは、自分のことはもちろん、周囲で困っている人や傷付いている人がいたら、力になっていきたいと思いません。